

加工業務用キャベツにおける契約取引に必要な事項を確認できるチェックリスト			
[要約]加工業務用キャベツの契約取引事例調査により、収益の安定性と作業の省力化、取組みにおける生産者の対応、需給調整方法を明らかにし、契約取引に必要な事項を確認できるチェックリストを作成した。			
農業総合センター農業研究所	平成23年度	成果区分	技術情報

### 1．背景・ねらい

加工・業務用野菜の契約取引においては、安定供給などの実需ニーズに対応することが産地にとって重要である。そこで、加工・業務用キャベツの契約取引を長期にわたり行う事例をもとに、契約取引の経営への導入効果、産地の対応や安定供給の方法を明らかにする。また、契約取引を志向する生産者等の取組みを支援するため、契約取引に必要な項目をチェックできるリストを作成する。

### 2．成果の内容・特徴

- 1) 契約取引による加工業務用キャベツ栽培は、市場流通向け青果用に比べて生産物収量当りの所得は低いが、所得の年次間変動は小さい(表1)。
- 2) 加工業務用キャベツは規格や出荷形態の簡素化で作業が省力化し、青果用に比べて規模拡大が可能である(表1)。
- 3) 需給調整を担う中間事業者を介し、実需である外食業者と加工業務用キャベツの契約取引を行うA組織の対応、及び中間事業者による需給調整の要点を表2に示した。  
A組織では「契約期間内の安定生産」に対し、「計画的な出荷のための作型・品種の検討」を行っている。他方、中間事業者はA組織を含む産地リレーにより、「周年供給」体制を構築して実需ニーズに対応している(表2)。
- 4) A組織では納品量の増加要請など「短期的な納品量の変動」に対し、「可能な限り対応」する。仮に量が不足する場合中間事業者は、自ら所有する貯蔵施設の農産物で応急する(表2)。
- 5) A組織では「不作時の対応」のため、「契約数量以上を作付」している。それでも契約量に達しない場合には、中間事業者が日頃から一定量を購入するなどして関係を保っている市場等から調達して、欠品に対応する(表2)。
- 6) 配送数量は、毎日の定量分に加え、店舗の売れ行きに応じた変動分が加わる。B事業者はこれら実需からの注文数量の調整と配送を一手に担っているため、産地の負担が軽減される(表2)。
- 7) 実需との契約量は原則固定しているため、A組織の生産者は「豊作時の対応」として契約取引以外の販売先を確保している(表2)。
- 8) 産地では生産の記録表を作成しクレームに備える等の対策をとっている(表2)。
- 9) 以上の結果をもとに加工業務用野菜の契約取引に必要な基本項目を 経営志向、生産対応、 需給調整、 リスク対応に分けて観点を整理し、それに基づく事項を確認できるチェックリストを作成した(表3)。

### 3．成果の活用面・留意点

- 1) チェックリストは、加工業務用野菜の契約取引を希望する産地(生産者、組織の代表者)あるいは指導機関が取組みに向けて必要となる基本項目を確認するとともに、課題となる事項への対応を検討するための資料として活用する。
- 2) 必要に応じ、品目や取引先との条件を考慮した新たな項目を追加して利用する。

